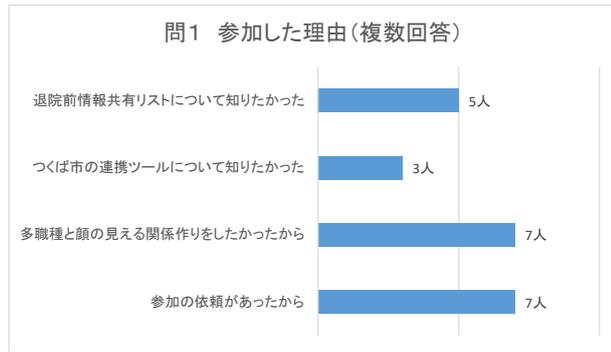


# 病院と在宅の連携に関する意見交換会 アンケート集計結果

開催日: 令和3年10月20日(水) 回答数: 14人

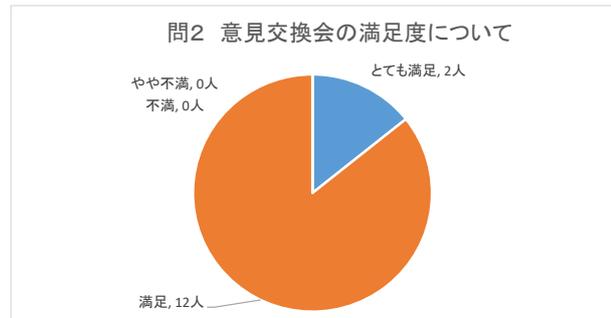
問1 意見交換会に参加した理由をお答えください(複数回答)

項目	人数
退院前情報共有リストについて知りたかった	5人
つくば市の連携ツールについて知りたかった	3人
多職種と顔の見える関係作りをしたかったから	7人
参加の依頼があったから	7人



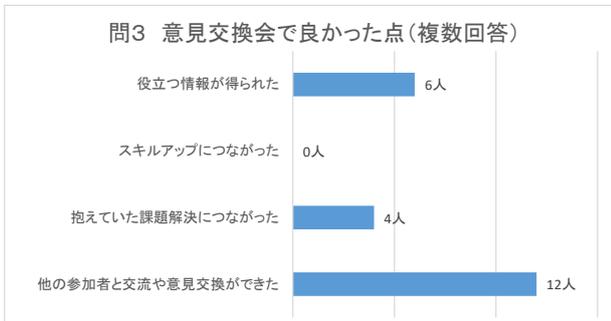
問2 今日の内容全般について、ご満足いただけましたか(4択)

項目	人数
とても満足	2人
満足	12人
やや不満	0人
不満	0人



問3 意見交換会で良かった点を選択してください(複数回答)

項目	人数
役立つ情報が得られた	6人
スキルアップにつながった	0人
抱えていた課題解決につながった	4人
他の参加者と交流や意見交換ができた	12人
その他	1人

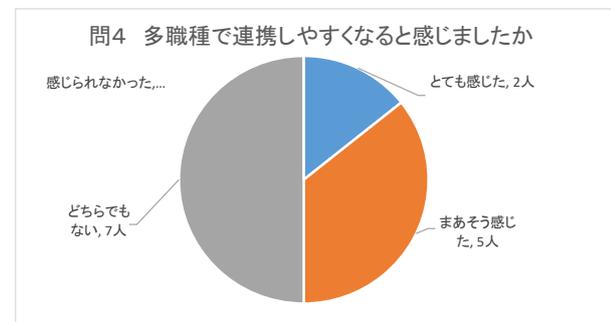


(その他の具体的内容)

何かを地域で取り組むに当たり意識の統一を図る事と、意見の違いを受け入れる事の一見相反するような作業の重要性を改めて思われ、個人的な学びになった。

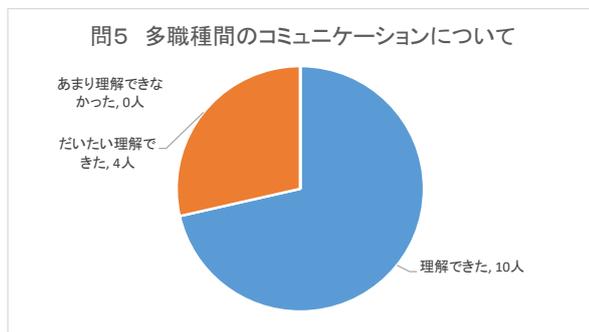
問4 意見交換会参加前と比較して、多職種で連携しやすくなった感じましたか(4択)

項目	人数
とても感じた	2人
まあそう感じた	5人
どちらでもない	7人
感じられなかった	0人



問5 意見交換会に参加して、多職種間のコミュニケーションの大切さをどのように感じたかお聞かせください(4択)

項目	人数
理解できた	10人
だいたい理解できた	4人
あまり理解できなかった	0人
理解できなかった	0人



## 問6 今後、病院と地域包括支援センターはどのような連携が必要と考えますか

- ・入院中より退院後の生活にスムーズに移行できるよう入院時より早期の連携、情報共有が必要と感じました。
- ・身寄りがない人への対応についての連携とマニュアル策定など
- ・外来受診に関する連携が必要
- ・急性期病院の場合、入院期間が短く、介入依頼や連携のタイミングが直前になることがある。連携しやすい関係づくりがより重要である  
と考える
- ・入退院時に双方ともにサマリーなどで情報共有を行っていくことが必要と考えます。
- ・つくば市も広いので、圏域毎の連携が図れると、地域のネットワークがより充実するように思います。地域の医者に働きかけてほしい。  
自分の患者には関わっている支援者がいて、その人たちとの連携が必要であることを医師にもっと知ってほしいです。
- ・連携ツールがもっと広まれば連携しやすくなるのではないかと考える。
- ・定期的な情報交換・共有の場が必要だと思えます。直接の対面だけでなく、コロナ禍で体制が整ってきたリモートでの連携を活用して迅速な連携ができるとよいと思う。
- ・お互いに苦手意識を持たずに、聞いてみようという気持ちや受けてもらおうという気持ちで連絡を行う。専門用語を使わず、分からないことは、確認をとりながら対応していくことが重要。圏域外でも連携を行うことになるため、意見交換会も圏域を超えたものができること更に、連携の密度が上がると感じた。市外の病院との連携をとる時のプロセスに違いがあるのか、うまく連携をとることができない場合もある。チェックリストの活用に関しては、退院調整の連携が多くなるのが、ケアマネージャーのため、ケアマネージャーとの意見交換会があると良いと感じた。
- ・緊急搬送時に身元が分からない方が増えています。また包括からの安否確認(入院しているかの問合せ)も増えています。このような事案は今後益々増加すると思えます。連携の在り方について検討できるとよいと思えます。
- ・身寄りのないケース、虐待ケース等困難度が高く、行政他課にも関与いただくような対象者の支援。市独自の地域課題を教えていただき、医療機関(医療資源)がどのようにコミットできるのかを明らかにする。
- ・療養者の入院・退院といった場面で円滑な橋渡しができるような関係作り。
- ・今回の会合のように、主だった人々の他職種間コミュニケーションは進んでいると感じる。一部で密になっているのは感じるが、反面全体的な広がりには欠け、普遍性や波及性に課題があるように感じる。もっと現場レベルでの交流、顔の見える関係性づくりが広がって行く事が、重要と感じます。コロナ禍で難しい部分はあるとは思いますが…。
- ・各センター病院がアセスメントした情報を踏まえたケース共有